

部を中心に分布する。

11 リュウキュウチク群落

放牧や伐採、火入れが行われたところは本凡例になっている場合が多い。イマキラ岳の山頂からその南部にかけての尾根筋や北部の牧場、南部の荒木崎の牧場付近には比較的大規模な群落 distributes。

12 トクサバモクマオウ群落

通称砂漠と呼ばれる北東部付近の砂丘地はかつて裸地化していたため、飛砂の被害が大きく、その対策としてモクマオウを植林している。砂漠の中心部に東西 700 m 南北 300 m の規模である。

III その他

13 牧草地

島の南北に位置する牧場のなかでリュウキュウチク群落やホソバワダン—マルバニッケイ群集を除いた部分は牧草地在分布する。

14 畑地雑草群落 15 水田雑草群落 16 畑地放棄地 17 水田放棄地

耕作地は集落の周辺や「砂漠」、一周道路辺や西部海岸の熱帯海岸林の後背地等に分布する。日本各地の離島と同じように宝島でも住民の離村や農業者人口の減少、農業者の高齢化等のため耕作地が放棄されている。また、宝島の耕作地は小規模でかつ強風対策のため防風林等によって遮蔽されているため耕作の有無を確認するのに時間を要するため、耕作地と放棄地のライン引きは航空写真によった。

18 路傍雑草群落 19 市街地

路傍雑草群落は道路辺の雑草群落でツルソバー—カラムシ群落、チガヤ群落等が主要なものである。宝島港やセンゴ港の周辺に小規模な群落 distributes。市街地は宝島の集落が一カ所であるが、その中にはオオクサボク—ガジュマル群落なども含み、環境庁の凡例では緑の多い住宅地となる。

(2) 植生分布の概要

宝島は面積 5.94 km² の小島であるが、地形的に以下の①海岸部②平地部③山地部に分けられ、植生分布も地形によって変化している。

①海岸部

宝島は古期の火山の周囲をサンゴ礁が取り囲み隆起した島であるため、陸地を一周するように隆起サンゴ礁が取り囲んでいる。そのため、最外端は無植生、ついで隆起サンゴ礁上荒原・草原、砂丘荒原、砂丘草原、熱帯性海岸林、風衝低木林の順で植生帯が続いている。

隆起サンゴ礁上荒原・草原には海岸から内陸にむかってイソフサギ群集、モクビャッコウ—イソマツ群集、ソナレムグラ—コウライシバ群集ついでところによってはテンノウメ群落が成立している。このうちもっとも規模の大きな群落はソナレムグラ—コウライシバ群集で西部の海岸では幅 5～30 m、長さ 2 km で連続している。

砂丘荒原は無植生帯部分で、その後に砂丘草原がハマアズキー—ゲンバイヒルガオ群集、コオニ

シバ群集、ハマニガナーハマヒルガオ群落、クロイワザサースナヅル群落、ハマゴウ群落、ハマボウフウツキイゲ群集と続く。

熱帯性海岸林はモンパノキークサトベラ群集、(ところによってはソテツ群落から始まるところもある) アダン群集、オオハマボウ群落と続く。セング港近くの内陸部にはアダン群集の前面にハウチワノキ群落があるところもある。また、西部海岸やセング港近くの海岸の群落は手つかずのものもあり、奄美諸島を含む県内でも規模が大きく、質的にも高い貴重な群落である。

海岸部の風衝低木林はホソバワダンーマルバニッケイ群集とアカテツーハマビワ群集などがあるが、このうち前者は南・北・東端の岩地だけでなく砂丘地にも分布し、後者は八幡神社、風見権現などの神社近くの海岸や荒木崎海岸などで発達している。また、風見権現にはアカテツーハマビワ群集の中にトウヅルモドキが上層に密に絡んでトウヅルモドキ群落が作られ、分布の北限地となっている。

②平地部・段丘部

平地部は人の活動の活発なところであるが、人為が少ない海岸近くにある未風化の隆起サンゴ礁部分はオオクサボクーガジュマル群落で、風化が進むにつれ主に内陸側はモクタチバナータブノキ群落になっている。戦後伐採され放置されたところはリュウキュウマツ群落になっている。また、島の南北端には牧場が、東部には水田や畑地などの耕作地があり、近年放置され耕作放棄地となっているところも多い。東部の砂漠と呼ばれる砂丘地にはオトコヨモギ群落、オキナワハイネズ群落、ミツバハマゴウ群落、イボタクサギ群落やアダン群集などの砂丘草原、熱帯性海岸林などが広く分布する。砂漠の中には大池と小池と呼ばれる池があり、かつては周年湛水されていたが、現在は干上がり湿地群落となっている。また、砂漠では飛砂の被害をくい止めようとトクサバモクマオウを植林し、幅 300 m、長さ 700 m にわたる大規模な群落をつくっている。

③山地部

山地部は中性の火山岩からなり、潮風の影響が島の隅々まで達するため、自然植生ではモクタチバナータブノキ群落、伐採後数 10 年経過したところではリュウキュウマツ群落、また、山頂や尾根付近には広範囲にリュウキュウチク群落が見られる。また、西部の斜面にはわずかにスタジイの混じる林分も確認されるが、潮風の影響が強いためスタジイ群落をつくるほどには達していない。

また、女神山の標高 60 m から 70 m 付近まではモクタチバナータブノキ群落が、その後標高 100 m まではピロウ群落が、100 m 以上ではケウバメガシ群落が占め、明瞭な垂直分布が形成されている。

(3) 過去 15 年間の植生の変化

大野の調査(1984)から 15 年経て、植生図を比較してみると 15 年間に大規模な変動はない。顕著な変化が見られたところは以下の地点である。

- ① 牧場造成による人工裸地の形成ー荒木崎
- ② 牧場造成のためのリュウキュウチク群落の拡大ー女神山北西部

- ③ 耕作放棄地からリュウキュウマツ群落・リュウキュウチク群落への変化－西部
- ④ 耕作地から耕作放棄地への変化－集落周辺部

IV 摘要

- 1 1999年11月20日から11月24日までの5日間、博物館の資料収集活動の一環として植物相の調査、植物群落・現存植生の調査の報告である。
- 2 植物相の調査ではシダ植物以上の高等植物92科344種の確認ができ、従来の記録と合計すると118科644種の植物が宝島には自生する。
- 3 このうち次の9種については今回の調査で初めて記録された。
クワ科 クワクサ、ザクロソウ科 クルマバザクロソウ、ナデシコ科 ノミノフスマ
アブラナ科 カラクサガラシ、トウダイグサ科 コミカンソウ、ゴマノハグサ科 ウリクサ、
ゴマノハグサ科 アゼナ、サトイモ科 リュウキュウハンゲ
- 4 104地点で植生調査を実施し、64の群落単位の確認ができた。過去の文献から宝島には68以上の植物群落が存在することが明らかになった。
- 5 宝島は石灰岩地帯であるため、シイ林は皆無に等しく、タブ林あるいはタブ型林のモクタチバナータブノキ群落も潜在自然植生となり、現存植生にも反映されている。
- 6 自然度の特に高い地域として女神山と海岸部があり、群落としては女神山山頂部にケウバメガシ群落、周囲にヒロウ群落がある。また、集落近くのオオクサボクーガジュマル群落も特異的な群落である。
- 7 宝島は造礁サンゴの北限地帯でサンゴ礁が形成されているため熱帯性海岸林、隆起サンゴ礁上植生、熱帯性の砂丘草原の植物群落も豊富であり、これが小島ながら多様な群落をもつ要因である。
- 8 過去15年で見られた変化は、牧場造成と耕作放棄によるものが主要である。

参 考 文 献

- 1) 初島住彦 (1991) 北琉球の植物 218pp. 朝日印刷. 鹿児島.
- 2) 初島住彦 (1986) 改訂 鹿児島県植物目録 290pp. 鹿児島植物同好会. 鹿児島
- 3) 平田 浩 (1995) 陸生の生物－植物 十島村誌 56-102 十島村
- 4) 鹿児島県保健環境部環境管理課 (1989) 鹿児島のすぐれた自然 314pp. (財)鹿児島県公害防止協会 鹿児島
- 5) 宮脇 昭 編著 (1989) 日本植生誌 沖縄・小笠原 637pp. 至文堂. 東京
- 6) 宮脇 昭 編著 (1981) 日本植生誌 九州 473pp. 至文堂. 東京
- 7) 宮脇 昭 編著 (1980) 日本植生誌 屋久島 365pp. 至文堂. 東京
- 8) 宮脇 昭 他 (1974) 名瀬市の植生 128 pp. 名瀬市. 鹿児島
- 9) 宮脇 昭 編著 (1967) 原色科学大辞典 植物 512pp. 学研. 東京

- 13) 大野照好 (1964) トカラ列島の植生 鹿児島の自然. 鹿児島県理科教育協会 161 - 165 鹿
児島
- 14) 大野照好・木戸伸栄 (1985) 宝島の植生 宝島自然環境報告書 (2-1) 鹿児島県 31 - 55
- 15) 迫 静男 (1991) トカラ列島の植物相 トカラ列島学術調査報告書. 57 - 117 鹿児島県
- 16) 新東晃一 (1995) 先史時代のトカラ十島村誌 361-425 十島村
- 17) 寺田仁志 (1995) 小宝島・小島の植生 鹿児島県立博物館研究報告 14号 1 - 32
- 18) 寺田仁志 (1997) トカラ列島・中之島の植生と現存植生図 鹿児島県立博物館研究報告 16号
1-48
- 19) 寺田仁志 (1999) 口之島の植物相と現存植生 鹿児島県立博物館研究報告 18号 43 - 78
- 20) 寺田仁志 (1999) 臥蛇島の現存植生と植物相 (野生化したシカ・ヤギが植生に及ぼす影響)
59pp.

宝島植生図

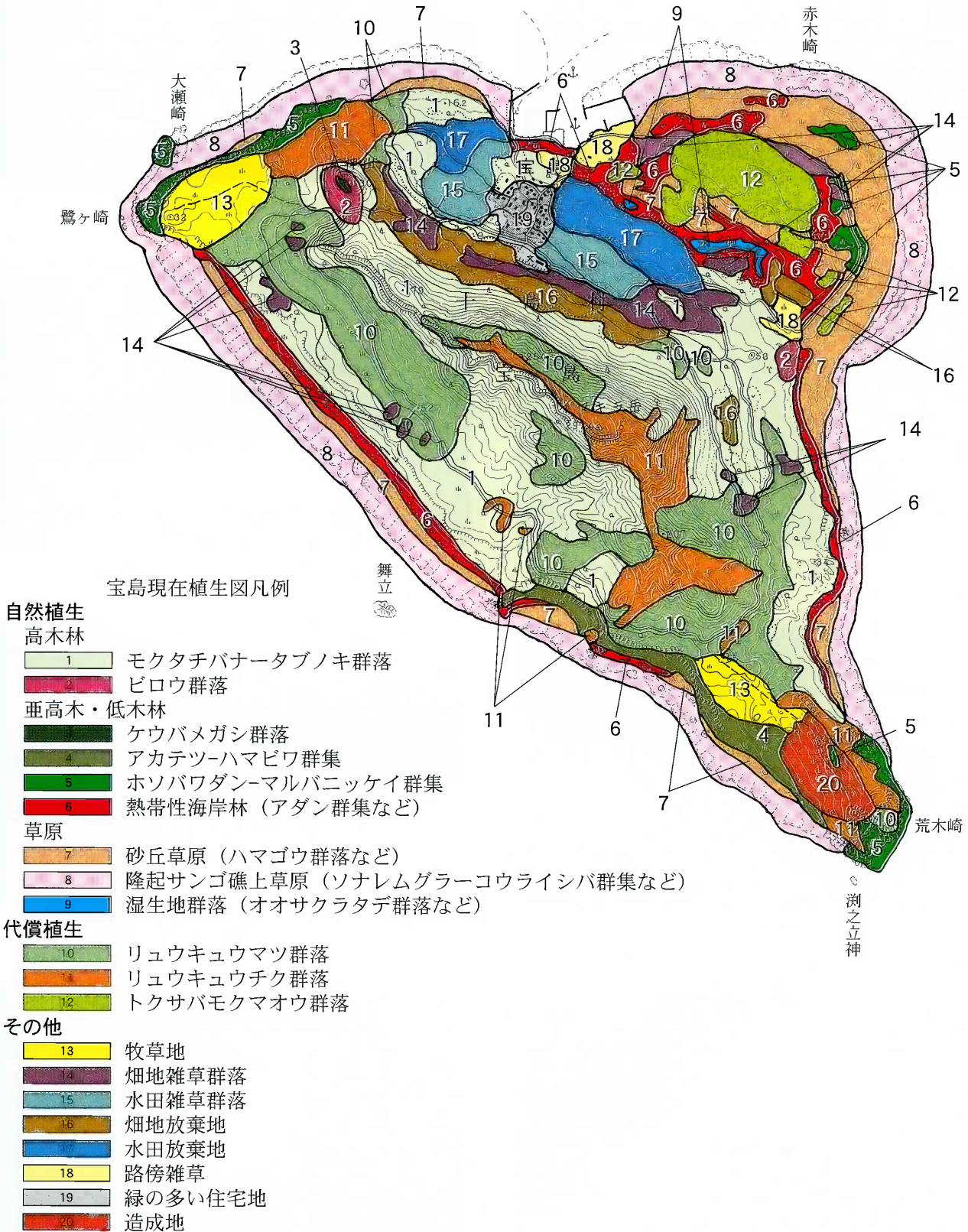




写真1 女神山のピロウ群落



写真2 女神山のケウバメガシ群落



写真3 ハウチワノキ群落



写真4 北限のトウヅルモドキ群落



写真5 良好な状態で残っている砂丘地植生



写真6 小池のオオサクラタデ群落



写真7 8月から12月まで宝島の道路周辺を彩るサキシマフヨウ



写真8 アサガオに似た花を咲かせるサツマイモ、県本土では滅多に花を付けない